

NPO 法人 京都コミュニティ放送
第 149 回 番組審議会

開催日時：2022 年 4 月 26 日（火）10：30～11：30

会 場：ラジオカフェ事務所、Zoom 併用

出席委員：ジェフ・バーグラント、隅井美沙子、福井秀彦、
(オンライン)岡本卓也、岡田芳宏

欠席委員：中村正

事務局：藤本香

(順不同敬称略)

ゲスト：「新井光一の京都街 Café」 <https://radiocafe.jp/201904002/>

毎週土曜 7:00～7:30 (30 分番組)

制作者 企画：新井光一 マルチサポート：Art Space 寄す処（代表：
沼沢忠吉） ED・BGM：シンガーソングライター 山口琢馬

■審議番組：「新井光一の京都街 Café」 番組趣旨の説明

番組オーナーである自分は神戸から京都に来て 15 年になる。住んでいて知らないこと、魅力がまだまだたくさんあり、リスナーに京都の魅力を、自分と同じように知ってほしい。また、この番組を聴いた方が、カフェに行った時のように、少しでもほっとひと息つく時間を過ごされることが願いである。今回は番組協賛でもある補聴器のお店のオーナーをゲストにお迎えした。

■3 月 24 日の放送を聴いて審議に入った

- ・引き出し方がうまく、トークと音楽のバランスも良い
- ・補聴器は世代が若いほど縁遠いものだが、明るく取り上げていて補聴器に対するイメージが変わった
- ・大変良い話をしてもらった。有名店を取り上げるのではなく、「こういった思いのもった人がお店をしているんだ」ということを伝えたいし、そう思ってもらえるのは嬉しい。テーマソングも知り合いに作ってもらったり、皆に助けられている。(新井)
- ・英語で障害(者)を指す語として「disability culture」といって、culture である。障害者と健常者の間には異文化コミュニケーションが生まれる。ラジオでこれを実現するには、音楽やワードを“繰り返し”をつかうと良い。例えば番組の始まりと終わりに「音っていいですね」とつかうことで、ゲストトークを踏まえて最後の言葉をリスナーが噛みしめることができる。また、「起承転結」の「転」があるとより完成度が高くなる
- ・パーソナリティとゲストのマイクの距離感も、個人の音圧に合わせて調整できる
- ・(ライブを尊重したいので CD を使わないということについて)思いがあれば時空を超える。ライブじゃなくても、思いをもっていいものを届けれたら良いと思う
- ・“舞台裏”をみんな見たがっている。CD を使うなら、ラジオでは「実は…」という制作秘話などを話す回があっても良いと思う

この審議会の議事録は 2022 年 4 月 27 日から事務所で閲覧できるようにした。

この審議会の 2022 年 4 月 27 日からホームページで公開した。